

大阪市におけるC型肝炎ウイルス検診と肝炎フォローアップ事業の検討

マツモト ケンジ タカハシ ミネコ
松本 健二* 高橋 峰子^{2*}
タモリ アキヒロ ニシグチ シュウヘイ
田守 昭博^{3*} 西口 修平^{4*}

目的 大阪市におけるC型肝炎ウイルス（HCV）検診の現況と肝炎フォローアップ事業の有用性を検討したので報告する。

方法 対象は、平成15～17年度の基本健診受診時に、HCV抗体検査を受けた40歳以上の希望者で、3年間の総受診者数は83,458人であった。HCV陽性者を支援するため、肝炎フォローアップ事業を行い、本事業に同意した者には、医療機関からの精密検査結果通知書の返送の有無で、精密検査の受診状況を把握した。結果が未返送の者へは、おおむね3か月・6か月後の2回保健師が電話や訪問で受診確認、および受診勧奨を行った。また、精密検査結果通知書と医療機関からの2年間の診療継続報告書から、医療機関における精密検査の内容や治療方針等を全例把握し、評価を行って、医療機関に対し個別に情報提供を行った。一方、本事業の同意が取れなかった者は、精密検査の結果を把握するのみであった。

結果 HCV抗体陽性率は、平成15年度が3.9%、平成16年度が3.8%、平成17年度が3.0%と年々低下していた。

肝炎フォローアップ事業の同意率は、平成15年度52.2%、平成16年度56.2%、平成17年度59.1%であった。本事業の同意ありと、同意なしで精検受診率を比較してみると、平成15年度の同意ありの群で82.6%、同意なしの群で37.5%、平成16年度の同意ありの群で77.1%、同意なしの群で37.7%、平成17年度の同意ありの群で78.0%、同意なしの群で34.3%と、いずれの年度も同意ありの群で有意に高かった（ $P<0.001$: χ^2 検定）。

返送された診療情報から、診療情報提供を行った。平成15年度が延べ153件、平成16年度が延べ105件、平成17年度が延べ58件であった。内容では、画像検査の未実施が107件（33.9%）と最も多く、次いで、HCVサブタイプや、定量検査の未実施、最終的なウイルスの有無を確認するためのHCV-RNA定性検査の未実施などが多かった。また、HCV陽性にもかかわらず、肝機能正常のため、フォロー終了となっているケースが50件（15.8%）、HCV-RNA定性検査が未実施にもかかわらず、フォロー終了となっているケースが15件（4.7%）あり、フォローが必要であるという情報提供を行った。

結論 HCV陽性者が、適切に精密検査やフォローアップを受けるためには、受診確認や受診勧奨などの支援が有効であり、医療機関に対する情報提供など、幅広く行う必要があると考えられた。

Key words : C型肝炎ウイルス検診, 肝がん, 肝炎フォローアップ事業

* 大阪市旭区保健福祉センター

^{2*} 大阪市健康福祉局

^{3*} 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆脾病態内科学

^{4*} 兵庫医科大学内科学肝胆脾科

連絡先: 〒535-8501 大阪市旭区大宮 1-1-17

大阪市旭区保健福祉センター 松本健二